

新富町の新たな力に!

第3回

地域おこし協力隊通信

あかねのつぶやき

この夏、私は生まれてはじめてサーフィンをしました。唯一、仕事を全部忘れて没頭できる時間でした。宮崎永住を誓ったこの夏、まだまだ遊び足りない37歳(11月で38歳)



「30歳を目前に宮崎へ帰るか迷っていました」、そう話すのは4月から地域おこし協力隊となった新富町(一丁田)出身の河野さん。Uターンのきっかけは、こゆ財団が東京で主催した「ローカルベンチャースクール」という起業家育成講座への参加でした。地元に戻っても働き口があるか不安だったようですが、「自ら起業する方法もある」という気付きをもらったことが帰宮を後押ししたそうです。

現在、加工品開発事業を活動の中心に置き、今春第1号



宮崎そばフロランタンは「JA児湯農畜産物直売所ルービン」のほか、今年7月に日向市金ヶ浜にオープンしたばかりの複合施設「STAIRS OF THE SEA (ステアーズ・オブ・ザ・シー)」でも販売中。先日、早速商品を大量納品。新富町の名物土産品として日向市にも仕掛けています!

地域おこし協力隊が
ついに9人になりました!



映像クリエイター
中山雄太さん

1993年、熊本県生まれ。鹿児島大学4年生時に1年休学し、世界一周自転車の旅へ。南極以外の五大大陸に足を運び、訪れた国は24か国に。帰国後は旅中に撮った動画を多くの人に観てもらおうと映像制作を独学。映像で地域に貢献すべく8月より地域おこし協力隊に。

商品として誕生した「宮崎そばフロランタン」の製造や販売に携わっています。前職では飲食店の運営に関わっていたことから、食にまつわる事業には非常に興味があり、起業家育成講座の最終発表会でも、食に関連した事業提案を行っていました。「新富町は自分が生まれた町です。何かひとつでも、新富の代名詞となる商品を作れたらと思います」と語り、目下、宮崎そばフロランタンを広めることに力を注いでいます。

協力隊の活動はまだ序盤ですが、
長期的な新富町での未来も少しずつ描いているようです。「具体的な計画はまだありませんが、いつか自分のお店が持てればと思っています。生まれ育った上新田の界隈は特にお店が少ないですから。あるいは、そろそろ引退を考えている祖父の農業についても後継が気になります。自分が後を継ぐという選択肢もあるかもしれません」と話します。1年前には想像すらできなかった新富町で暮らしては、日々の活動を通じてどんどん鮮明になってきているようです。



河野大樹(かわの・たいぎ) 1988年、宮崎県新富町(一丁田)出身。町内の小中学校、市内の高校を卒業し大学で東京。WEB制作会社、サラダ専門店の運営会社で経験を積み、こゆ財団が主催する起業家育成講座に参加したことをきっかけにUターン。4月より地域おこし協力隊として加工品開発事業に取り組む。